

昭和40年9月15日

N O R C ニ ュ ー ス

社団法人 日本外洋帆走協会

神戸～横浜交歓ヨツトレース・鳥羽パールレース

本年度のレースは、艇の回航の際Wの強風により非常に苦労され、（御前崎港の漁師の話では10年来の西風）、いざ本番のレースでは、スタート時より風が落ちはじめ、特に神子元島～大島～三崎とフィニッシュ点に近づくに従って無風に悩まされ、神戸大阪レースはモサーⅢのみが完走し、鳥羽レースは全艇タイムリミットにかゝると云う、近年にない悪レースになってしまい、出走された各位には大変気の毒な結果でした。タイムリミットの設定については再検討をしたいと思えます。

MOSSA-Ⅲ、STAR DUST、MINERVA-Ⅱ、ドンドロの海難救助の善行に対し表彰を決定

7月22日レース中白浜沖にて第二寿福丸の乗組員全員を救助した善行に対して、当協会は記念品を贈り表彰することに決定しました。朝日新聞本社よりも「明るい社会賞」を8月26日受賞しました。

受賞者各位にお慶び申し上げます。当時の乗組員及び救助報告書は次の通りです。

MOSSA-Ⅲ	守谷克巳、吉田義明、小泉信一、荒井日出男、鳥飼俊宏
STAR DUST	谷川晴彦、蔭山陽三、山田鉄男、松岡敏、鈴木知二、 中島昭典、阿達昌尚

MINERVA-II 貴伝名一良、山本誠、沼田吉弘、池本洋祐、中島兵介
ドンドロ 前田豊一、頼川三郎、前田満、柳井綾次、木村英三

救助状況報告書

昭和40年7月22日

- 5.00 白浜沖をスタートした時は風も弱く南西2m位で波高も1m位であつた。
- 7.30頃 市江崎を通過する頃から風やゝ強まり(南西6m位)波高も潮波が加わり3~4mになる。波も"三角波"状に変わり船のローリング、ピッチングが大きくなる。
- 8.00頃 市江崎附近で我々ヨットを超越して行つた木造機帆船(第二寿福丸40t)が安宅崎手前から急に速度を落し、進路を岸に近づけ始めたので、周参見へ入港するものと思つていた。
- 8.20 スターダスト、モサーⅢは寿福丸を超越し周参見沖に至達した頃最后を走つていた"ミネルバ"帆を下ろし急に沖へ転針した寿福丸の近くを廻り始めた。先行艇はミネルバか、寿福丸のどちらかに事故が起つた事を察した(ミネルバ艇の話では寿福丸が、急に沖へ転針し積荷のチップを海へ捨て始めたので近くへ寄つて行つたとのこと)
- 8.30 先行艇が、180°転針し帆を下ろし機走した時、寿福丸が左舷を見せ乍ら岸から2000M位の処で横転するのを見た。先行艇が現場に到着した時は、チップが周囲一面に浮び波にデッキを洗われている悲惨な姿の寿福丸を見た。
- 我々4艇は夫々為すべき仕事を分担した。即ち強力なエンジンを持ち且つ収容力のあるスターダストが現場に居て救助に当り、次いで大きいエンジンを持つミネルバが周参見へ連絡

に行く、残りの船はスターダストと共に救助に万全を期す。寿福丸の乗員は2名で、10分位はぼうぜん自失の状態。船長はキャビンの屋根にうずくまり機関手は操舵室で舵を持つたまま動かなかつた。船体はデツキが水面よりやゝ下にある状態を保ち、風と波で、白波が高く打ち上げている岸へ徐々に寄せられて行く。

9.00 岸まで1,000m位になつた時、海の色も緑色になり、白波も立ち始めたので、岩礁と波が更に悪くなり、救助が困難になるので、この地点が我々ヨットで乗員を救出可能な限界と判断し、船長に船の放棄をうながす。

ライフリングにロープを結び、スターダストから流し寿福丸に接近する。機関手は泳げないので怯がり、船長に海に落とされる様にしてライフリングにつかまりスターダストに救助される。船長は泳いでヨットに乗る。

この間に漁船(200t位)と曳き船が近づく。

10.30 無事救助出来たので、とりあえず最寄りの周参見港へヨット3艇と曳船と入港し、警察官へ2名をお願いし我々ヨットは串本へ向う。

(警察官と救助した2名は曳船で遭難現場へ向う)

以上

(MOSSA-III 守谷記)

第2回クルーザー教室を開講します

NORC主催、舵誌後援による第2回クルーザー教室を開催します。第一回は既報の通り盛会の裡に終り受講者の中より、早速会員に入会され、又

新艇を建造されている方々もいます。初心者にご勧誘下さい。

開講日時 10月7日 1830 船舶クラブ 座学

10月10日、17日 0800 油壺 実習

申込締切 9月末日 会費 ¥ 5,000 定員約20人

申込場所 日本外洋帆走協会 本部

熱海ランデブー報告

8月1日絶好のランデブー日和に恵まれて、NORCの精鋭27隻は1100熱海港に集結、全艇満船飾にて熱海港を賑した。熱海後楽園の好意により新装なった同園の施設を全部解放し、又1200より大歓迎会を開催され、関谷会長、古屋副会長の挨拶の後、森繁久彌会員のヨツトの歌等で錦上花を咲かせ、大盛会のうちに1500解散、それぞれホームポートに引揚げた。

会員の皆様より年一回位はこの様なランデブーを是非実施したいとの強い要望があつた。

ランデブ委員田辺英蔵氏（蒼龍）及熱海後楽園の皆様にも厚く感謝致します。

諸磯湾導灯及網代崎灯柱を設置します

油壺及小網代湾の夜間進入を容易にし、航海の安全を期する為油壺記念碑基金により灯標を設置します。

諸磯湾導灯は緑灯、赤灯の見通し一線上を進入するものにて、三船敏郎氏の敷地内に設置します。地所の使用は福留清彦会員の口添にて三船氏より認可を得ています。

網代崎灯柱は小網代湾への進入を容易にする為、旧水産学校の煙突（現

在は撤去)の好目標と同じ位置に設置する予定、敷地は国有財産の為交渉に日時を要しましたが、40年8月27日附神奈川県々知事より使用許可を得契約書を取交しました。位置、灯質、その他の明細は設置后通知します。

新レーティング計測規則の説明会を開催

前号NORCニユースにより新計測実施についての公告をしましたが、諸準備不備の為41年のレースより実施することに改めます。

新ルールによる計測にはオーナー計測委員の緊密なる提携と事前準備を必要としますので新ルールの説明会を実施します。会員皆様の出席をお願いします。特にオーナ(代理人)は必ず出席して下さい。当日は計測規則書をご持参下さい。

9月30日(木曜)1830 於船舶クラブ

1. 新ルールの解説
2. 艇の計測以前に準備すべきこと。
3. 計測日の割当(割当日以外は当分の間計測出来ません)
4. 計測費
Class I ¥7.000 旧計測済の艇はこの計測費より
 " II ¥6.000 ¥3.000を差引きます
 " III ¥5.000 設計図の無い艇は別途実費を徴
 " IV ¥4.500 収します。
 J O G ¥4.000

定置網、筏、標識灯設置について保安部に要請

上記についての現在迄の経過報告を致します。

7月1日 常務理事より横須賀保安部長宛書簡にて筏標識灯設置方業者に
 懇願方依頼。

7月6日 1530 横須賀保安部（川岸保安官）より電話にて油壺方面の漁業組合に申し入れの処了承し、灯器具の選択段階にはいつたと連絡あつた

9月8日 横須賀保安部川岸保安官にその後の動静電話照会の処各業者間にて意見生じ実現に至らず。
官側として強制施行に踏み切る訳にもゆかず成果見守る態とのこと。

事務局よりお願い

- 会費未納の方は至急お払込下さい、会の運営上に非常に支障をきたしています。
- 全国会員数報告（40.8.20現在）

	特 別	普 通	候 補 生 員 準 会 員	計
関 東	89	228	24	341
東 海	18	52	0	70
内 海	31	117	72	220
京 都	—	—	—	未報告
計	138	397	96	631

- 新入会員名簿及住所変更一覧表を送付します。来年度は会員名簿を発行しませんから綴込又は訂正して下さい。定款、会員名簿、レース規則、計測規則書の残部がありますから、ご希望の方はご一報下さい。

○ NORC 第二回講習会会計報告(40年6月13日)

収入の部		支出の部	
受講者32名	16,000	配布教材費	9,050
		会場費(2日)	12,980
		講師車代(5人)	20,000
差引不足額	28,160	雑費	2,130
計	44,160	計	44,160

新登録艇紹介

SAIL No.	YACHT	RIG.	TCF	CL.	FLEET	OWNER
374	高麗	Y			油壺	方栄世
	設計者 横山晃	LOA 7M480, B 2M420	ENGINE DIYA 3HP/1800			
	建造所 トーアヨット	LWL 5M760. D 1M500	DISPT 2T600			
375	NORO-II	Y				芳賀 俊一郎
	設計者 横山晃	LOA 7M480 B 2M500	ENGINE DIYA 3HP			
	建造所 馬淵建設	LWL 6M000 D 1M280	DISPT 2T000			

艇名及特別会員変更

309	DULSINEA	S	622	A	(旧名 RION)	平松 栄一
310	LUNAROSSA-II	Y	684	A	(旧名 SEA KING)	岡野 喜一郎

特 別 会 員 変 更

SAILNo	YACHT	新特別会員	旧（普通会員になる）
319	KAMAKURA	中戸 将治	颯原 正美
340	SHARK X	森村 譲治	落合公平(オリンパス-IIの特別会員)
361	AOLELE-II	沼口 日出士	木村 安夫

候 補 生 よ り 普 通 会 員 に 登 録

3350 馬渡健治	4465 石橋国雄	4495 山田昌興
3411 畑中俊彦	4494 小林幸雄	

本 年 度 の レ ー ス 予 告

初島レース	開催日 コース スタート	9月25日(土)～26日(日) 小網代～初島(時計)～江の島 小網代 2000
神子元島レース	開催日 コース スタート 申込期日 艇長会議	10月22日(金)～24日(日) 小網代～神子元島(反時計)～城ヶ島 小網代 2200 10月10日(日) 10月18日(月)1830 横浜海員倶楽部
小網代カヌーレース (小網代フリート 担当)	開催日 コース スタート 申込期日 艇長会議	11月20日(土)～21日(日) 小網代～大島(時計)～城ヶ島 小網代1000 11月7日(日) 11月15日(月)1830 横浜海員倶楽部
湾内ポイントレース (油壺フリート 担当)	開催日 申込期日及 び艇長会議 参加料	毎月第3日曜日 前日2130 油壺ヨッテル 1艇に付 ￥1,500-

1965年 神戸～横浜交歓ヨツトレース 報告書
鳥羽 パールレース

レース委員長 安岡 信一

7月19日(月) 雲時々小雨気温平年以下午後S風力1

16.30分神戸市須磨着(安岡 中山 麻里)入港艇モサーⅢドンドロ
スターダスト 17.00ミネルバ入港 サモンⅡは回航中エンジント
ラブルで御前崎入港 レースは出艇せずと連絡あり、18.00より前夜
祭。 会長、秋田副会長出席、龍王丸の陳さん出席し神戸横浜レースに
は回航が間に合わないので、鳥羽レースに出艇することになったと連絡あ
り。

前夜祭では会長、副会長の挨拶各艇の紹介等関東、関西の交流を致しまし
た。

7月20日(火) 雲り時々小雨気温ひくい、SW風力1～2、

須磨ハーバ内事務所にて、09.00より艇長会議、10.00仮スタート
(スタートラインはハーバ沖のマークボート2隻により其の間)新和歌の
浦に18.00全艇入港

7月21日(水) スタート時小雨気温はひくくNW風力0-1、

09.00会長出席の上スタート前艇長会議、各艇長より申込があり本スタ
ートを田辺よりする事に決定するが、コミンテイとしては新和歌の浦をス
タートとして扱う事にする。10.00ラジオ時報によりスタートするが風
が無い為に目の前にいつまでも浮んでいる。スタート後各所に挨拶廻りの
後鳥羽に直行する。16.00鳥羽浜べ浦朝雲旅館に着き、本部を開く用意
と保安部、御木本、市役所、鳥羽商工会議所、国際ホテル、税関等挨拶廻

り。

18.00より国際ホテルでニュージャパン・マリンのパーティあり入港艇は龍王丸18日12.00アオレレーⅡ18日17.00ネビーブルー20日15.00フルルブルー20日12.00バレリーナ21日09.00マイグレーター18.00入港

7月22日(木) 雲り時々小雨気温低くW風力1~2、

10.30東海支部の鈴木、水上両コミソテイ着本部開催、13.30新聞社より電話で神戸レース出艇中の四艇が田辺沖において沈没しかかっている機帆船(40t)の乗組員2人をレース中断して救助したと連絡あり、

15.00うずしお入港を最後に全艇入港15.00より出艇申告書受付開始

16.40モサの吉田さんより電話がありレース中断した為、本日18.30より串本から再スタートするむね連絡あり。17.00艇長会議保安部より四管の救難課長鳥羽の係長、会長則武常務理事出席18.00より前夜祭本年は名司会者の飯島専務理事が出席しないので安岡が司会する。

7月23日(金) スタート時雲り気温平年より低いSW風力0~1、

12.00御木本パールアイランド沖を仮スタート13.00ヨセマルを本スタート、スタート時は風速1~2m/sで霧視界約3マイル最後の艇がスタートラインを通過したのが13.50でした。

各艇帆走していると云うより潮に流されている様な感じが強かった、上陸後各所に挨拶廻りして、三崎本部に向う、本部着23.00風力なし今夜より24時間ウオッチに付く

7月24日(土) 雲り気温平年並NE風力0~1、

23日18.00の天気図によると潮岬W風力5(以下風力略)御前崎W5大島W4、24日09.15では潮岬W4、御前崎W3、大島W4であるが三崎はNE風力1なのでレース艇は石廊崎まで来ているが陸に近くなると

風がなくなり困っているのではないだろうかと皆で話している所へ飯島さんが陣中見舞に来て下さる(15.00)18.00潮岬W4、御前崎W4、大島SW2、三崎NE1~0あいかわらず遠州灘沖には風があるが三崎近くは風力0に近い、今夜も24時間ウオッチに付く

7月25日(日) 雲り気温低くN-NE風力0~1、

06.30約1.5マイル先に帆影発見モータボートで確認に行きモサと確認約1.5マイルを三時間以上かゝつて9時44分20秒フィニッシュする。申本より2日15時間14分20秒でフィニッシュ各レース艇(神戸レース)も近くまで来ていると報告があつたので海上を見るが帆影なし、11.30ドンドロ機帆走で三崎入港12.30、ミネルバ機走で入港13.30、スターダスト機帆走で入港、神戸レース全艇入港するが完走艇はモサ艇だけである。

17.00横浜氷川丸において会長則武理事、飯島理事、横山理事出席の上表彰式横浜市長より、モサに市長盃並にフワーストフィニッシュの議長盃が渡される。

とても大きいトロフィだ、レース参加各艇に田辺沖の救助により敢闘賞が出た、各艇シーマンシップありがとう。

18.00鳥羽レースのタイムリミットになるも全艇フィニッシュせず風力は相変ず1ぐらい、17.00オリンパス大島棄権入港を初めに17.50うずしお機走着、18.30応龍、21.00はやとり、ケリダ、21.10クロニヤ、龍王丸、21.30ジュンブライド、21.40フルルブルー、22.00ネビーブルー、22.08飛車角、22.10アオレレ、22.23マイグレートー、23.00潮風、23.05パレリーナ以上全艇棄権入港を確認し三崎本部に連絡の上ウオッチをとく。

後 記

タイムリミットに付つて

今回のレースは神戸横浜レース、鳥羽レースでタイムリミット内にフィニッシュした艇は1艇だけと云う淋しい結果になつてしまつたが、タイムリミットの決定に付いては、過去の鳥羽レース所用時間を参考の上委員会に於て決定され艇長会議に計られました。天候の状況から此の様な結果になり我々コミッテイも張切つてやつたつもりなのですが残念でなりません。今後も此の様な事が出来来ると思いますが、レースに関係のある会員諸兄の中にも時間の制限を受けられる方もいると思つたので、タイムリミットを無くすると云う事も問題ではないでしょうか？ しかし此の様な結果になつたと云う事はタイムリミットに付いて十分な研究が必要であると思つています。

此の結果はひとつの我々の経験であつて此の結果を土台として此の先もつとN.O.R.C.のレースが充実して行く事と思つています。

報告の義務に付いて

艇長会議（横浜海員会館）、回航計_正、鳥羽入港報告、棄権報告書、（これは棄権ではなく失格とも考えられますので報告書を出さずとも良いと思つてもおられると思つていますが）等2.3の艇で出席又は報告のない艇がありました。運営上支障をきたしますので、規則はかならず守つて頂きたいと思つています。

最後に各保安部並に御協力下さいました方々に此の紙面を持ちまして御礼申し上げます。

神戸～横浜交歓レース 収支計算書
鳥羽 パールレース

1965. 7. 31

		神戸～横浜 交歓レース	鳥羽パールレース	備 考
収 入 之 部	神戸～横浜交歓 レース実行委員会	100,000.00	円	
	参加申込料	5,000.00	19,000.00	
	会員参加料	11,000.00	49,000.00	
	前夜祭参加料	-	21,900.00	
	合 計	116,000.00	89,900.00	
支 出 之 部	旅 費	87,430.00	32,580.00	会長、常務理事、主事、 安岡レース委員長他1名
	宿 泊 費	74,664.00	56,281.00	コミッテ-諸氏
	交 通 費	3,116.00	10,694.00	車 代
	前夜祭参加料	1,200.00	21,000.00	
	電 話 料	5,560.00	4,390.00	
	印 刷 費	6,210.00	6,020.00	帆走指示書、挨拶状、 礼状、連絡先一覧表
	諸 借 料	250.00	16,250.00	
	消 耗 品 費	1,028.12	616.88	
	通 信 費	400.00	200.00	
	諸 雑 費	9,960.62	6,734.38	
合 計	189,818.74	154,766.26		
差引不足額		<u>73,818.74</u>	<u>64,866.26</u>	

両レース支出額はレース日数等を参考に後日按分したものです。

廣東省立第一師範學校
 廣東省立第一師範學校

1933年

姓名	籍貫	學歷	備註	分數
李國華	廣東省	廣東省立第一師範學校
陳文輝	廣東省	廣東省立第一師範學校
張德全	廣東省	廣東省立第一師範學校
劉志強	廣東省	廣東省立第一師範學校
黃子明	廣東省	廣東省立第一師範學校
周文輝	廣東省	廣東省立第一師範學校
吳文輝	廣東省	廣東省立第一師範學校
趙文輝	廣東省	廣東省立第一師範學校
孫文輝	廣東省	廣東省立第一師範學校
李國華	廣東省	廣東省立第一師範學校
陳文輝	廣東省	廣東省立第一師範學校
張德全	廣東省	廣東省立第一師範學校
劉志強	廣東省	廣東省立第一師範學校
黃子明	廣東省	廣東省立第一師範學校
周文輝	廣東省	廣東省立第一師範學校
吳文輝	廣東省	廣東省立第一師範學校
趙文輝	廣東省	廣東省立第一師範學校
孫文輝	廣東省	廣東省立第一師範學校
李國華	廣東省	廣東省立第一師範學校
陳文輝	廣東省	廣東省立第一師範學校
張德全	廣東省	廣東省立第一師範學校
劉志強	廣東省	廣東省立第一師範學校
黃子明	廣東省	廣東省立第一師範學校
周文輝	廣東省	廣東省立第一師範學校
吳文輝	廣東省	廣東省立第一師範學校
趙文輝	廣東省	廣東省立第一師範學校
孫文輝	廣東省	廣東省立第一師範學校

廣東省立第一師範學校